

科目名	西洋経済史	科目責任者	寺西 宏友
課題と試験担当教員			
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CECON352		

■ 科目概要

経済史という学問は、経済・社会の発展のメカニズムを理解する上で、大変に重要な役割を果たしています。特に、資本主義という経済システムの発生とその変遷に対する理解は、現代社会を理解する上で、欠くことの出来ないものだと思います。また、産業革命に端を発して、形成されてきた産業社会の歴史を振り返ることによって、現代社会の抱える問題をより良く理解出来るとも思います。したがって、この講義の中では、通史的な理解を目指すことはもとより、歴史的な発展のメカニズムを理解するための基本的概念を史実に即して、解説することにも、努めていきたいと思っています。具体的には、産業革命以降のヨーロッパ、特に英国・フランス・ドイツ各国の社会経済史的問題を取り上げていきたいと思っています。さらに、各国の帝国主義的発展の帰結としての第1次ならびに第2次世界大戦について、その勃発の原因としての当時の世界が抱えていた経済的諸問題に焦点を合わせて論じたいと思います。

■ 到達目標

歴史の細かな年代や固有名詞を覚えることは基本であるが、そのみに留まらず、社会・経済発展のダイナミズムとそのメカニズムを理解することを目指したい。特に資本主義というシステムの生成・確立・変容について、理解し、説明出来るようになることが、この授業の目標。

具体的に、下記の到達目標を達成した場合、C以上の評価となります。

- 1) 資本主義発展の歴史について、多面的に考慮することが出来る。
- 2) 歴史発展の因果関係を論理的に説明することが出来る。
- 3) レポートや試験答案作成にあたり、論点が明らかな文章を作成することが出来る。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
オリエンテーション	現代経済学のかかえる問題点と西洋経済史。
「歴史と経済学」	時代の転換点で起こる経済学のパラダイムの転換。 4人の代表的な経済学者の登場の歴史的背景を俯瞰して、経済学こそが、時代の変化を俯瞰する学問であることを確認する。 アダム・スミス カール・マルクス J・M・ケインズ M・フリードマン
「西洋経済史の課題」	資本主義経済のメカニズムの理解 生産様式としての「封建制」vs「資本制生産」 封建主義から資本主義への移行「ドップvsスウィーズ論争」 参考図書：高橋幸八郎「ドップvsスウィーズ論争によせて」大阪経済法科大学『封建制から資本主義への移行』柘植書房1982年
「封建制の危機—貨幣地代の成立過程」	封建地代の形態とその変遷 —労働地代・現物地代・貨幣地代 封建制の危機への対応としての絶対王政の成立とその国民的類型—英・仏・独
「イギリス絶対王政期の社会・経済問題」	16世紀英国経済の変動と社会問題の激化、宗教的対立の構図 参考図書：常行敏夫『市民革命前夜のイギリス社会』岩波書店1990年

学習範囲 該当する章など	学習内容
「市民革命の歴史的意義」	資本主義への移行の凝縮的表現―経済的利害対立の基本構造 参考図書：河野健二「フランス革命小史」岩波新書； 村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史』ミネルヴァ書房 1986年 第2章
「イギリス市民革命の歴史的課程」	清教徒革命から名誉革命へ 参考図書：村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史』ミネルヴァ書房 1986年 第2章
「初期ブルジョワジー国家の成立」	イギリス重商主義政策の展開
「イギリス産業革命の前提条件」	17・18世紀のイギリス経済の発展―マニュファクチュアの展開
「英国産業革命」(1)	イギリス産業革命の意義・展開過程
「英国産業革命」(2)	産業発展と人口の増加 第2次エンクロージャーと食料需要の増大
「英国産業革命の大陸への影響」	フランス革命の前提―アンシャンレジーム期の社会経済問題 参考図書：服部春彦・谷川稔編著『フランス近代史』ミネルヴァ書房1993年、49-57頁； 河野健二著『フランス革命200年』朝日選書331
「フランス革命の歴史的意義」	フランス革命の歴史的過程 参考図書：服部春彦・谷川稔編著『フランス近代史』ミネルヴァ書房1993年、49-57頁； 河野健二著『フランス革命200年』朝日選書331
「フランスにおける工業化の特徴」	経済発展の漸進性、サンシモン主義
「ドイツにおける近代化の諸問題」(1)	ドイツ経済発展の地帯構造、シュタイン＝ハルデンベルグ改革
「ドイツにおける近代化の諸問題」(2)	農奴開放の地域別実態 東エルベにおける ユンカー経営の誕生
「イギリス資本主義の確立」(1)	重商主義政策の行き詰まり―経済自由主義の台頭
「イギリス資本主義の確立」(2)	工場法制定の歴史的意義 穀物輸入をめぐる諸問題―自由貿易主義
「19世紀の経済変動と恐慌」(1)	景気循環に関する諸説
「19世紀の経済変動」(2)	経済恐慌のメカニズム―経済恐慌は何故起こるのか
「19世紀の経済変動」(3)	イギリスを中心とした世界貿易・金融体制の成立と恐慌の世界的拡散
「株式会社制度の展開」	資本調達システムの確立と恐慌の深化
「資本主義の変容」	19世紀後半の大不況期と独占・寡占資本主義の登場
「金融資本主義の台頭」	各国における独占の比較
「近代的総力戦としての第1次世界大戦」	植民地帝国主義の激突 各国戦時経済体制の問題
「第1次世界大戦の終焉とヴェルサイユ体制」	

学習範囲 該当する章など	学習内容
「戦間期の世界経済」(1)	戦争賠償金問題とナチスの台頭
「戦間期の世界経済」(2)	1929年世界経済恐慌の勃発と、各国の失業問題
「第2次世界大戦の勃発」	世界大戦は避けられなかったのか

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	西洋経済史について理解を問う
レポート	西洋経済史について理解を問う

■ 評価方法

○科目試験：70%

○レポート：30%

■ 教科書

書名：西洋経済史
著者名：北政巳
出版社名：創大出版会
出版年：昭53.4
版：初版
刷：
ISBN：

■ 参考書

1. 飯田隆『図説西洋経済史』 日本経済評論社 2005年6月
2. 村岡・川北『イギリス近代史』 ミネルヴァ書房 1986年
3. 木谷・望田『ドイツ近代史』 ミネルヴァ書房 1992年
4. 服部・谷川『フランス近代史』 ミネルヴァ書房 1993年

■ 履修上のアドバイス

出来れば、「経済と歴史」や「日本経済史」等の経済史関係の科目とあわせて、本講義を履修していただきたいと思えます。

■ 自習時間

毎回の授業に必要な学習時間（小テスト、レポート、課題など）：1時間

■ 担当者のプロフィール

1955北海道生まれ。創価大学経済学部4期卒業。専門はドイツ経済史。学内では1997～2008年まで国際部長として、創価大学の国際交流業務に携わってきました。趣味は将棋と読書。